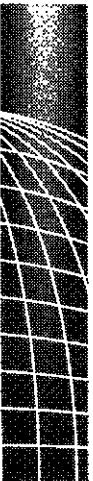


記者手帳



る。

じじどにわかに浮

上してくるのが、業界再編の動きだ。

ある地域の処理業者は「ここに来て、収集運搬業者が増え

不景気が長引く中、一番底がくるかも

もしないという話

産廃処理業界の再編

人事ではない。国による緊急融資への支援を受けた業者は約2000社あると言われるが、今期はこれで凌げても来期の保証はない。現に「まさかあの眞面目な業者が」というような倒産が起きてい

て過当競争になつている。安値競争には巻き込まれたくない」というが、これについてある業界関係者は「1社で複数の都道府県政令市の許可を持つつてあるケ

で、もつと言えば、実は三千数百社ぐらいの市場になる。さらに処理施設をもつていてる処分業者で許可は持つてないが、実際に営業している業界関係者は「1社で複数の都道府県政令市の許可を持つつてあるケ

つて撤退する業者が、これに対しても、株式公開をしている全

ての業者がシェア競争を展開しているのがおおよその業界見取り図だが、このままの景気が続くと

この動きが加速す

ることが考えられ

あらわれている。(中)

たといふ、実際の許可業者は国の統計による二十数万件ではなく、数万件になると言っていた。

明確に根拠のある数字ではないが、現象としては確かにそのようなことが起きている。地元の有力

業者に処理施設を売

見出すものや、「地

方発海外事業

業者もある。

そのため、この地域の有力業者は地元の産業廃棄物だけでは現状では維持できないため、全国規模の業者によるネットワークや廃棄物管理会社によるネットワークに活路を見出

平成22年3月1日
週刊循環経済新聞